資料5

令和4年度「デジタル田園都市国家構想交付金活用事業」評価結果

（令和５年7月）

○　デジタル田園都市国家構想交付金について

デジタル田園都市国家構想交付金は、デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上の実現に向けて、他の地域等で既に確立されている優良モデル等を活用した実装の取組や地方への新たな人の流れを創出する取組等の費用に充てるために、国が地方公共団体に対して交付金を交付する制度。

デジタル田園都市国家構想交付金を活用する事業にあっては、ふさわしい具体的な重要業績評価指標（ＫＰＩ）を設定し、ＰＤＣＡサイクルによる成果を重視した事業を展開するとともに、事業年度毎に、外部有識者等による効果検証を行い、その結果について公表し、かつ、国へ報告することとされています。

昨年度は、地方創生推進タイプ　2事業、地方創生拠点整備タイプ　2事業、　デジタル実装タイプ　2事業を実施しました。

地域再生計画の名称	事業概要	取組内容	ＫＰＩ（令和4年度）		指標の達成度（自己評価）		改革改善の方向性及び課題・解決策
			目標値	実績等			
【交付金名：地方創生推進タイプ（旧：地方創生推進交付金）】							
地域公共交通でつながる だれもが”わくわく” するまちプロジェクト （R3～R5年度対象）	中心市街地である真岡地区を循環するコミュニティバス（いちごバス）の運行に加え、中心市街地と周辺部を結ぶ、新たなコミュニティバスの実証運行を行う。 周辺部を含む公共交通網を整備することで、市全体の周遊性を高めるとともに、観光・健康事業との連携を図り、新たな人の流れの創出や市民の暮らしやすさの向上につなげる。	・真岡市地域公共交通活性化協議会において、中心市街地と周辺地区を結ぶ新しいコミュニティバス「もおかベリー号」のルート、ダイヤ、車両、実証運行の検証方法などについて協議し、令和5年4月24日から実証運行を行うことで承認を得た。 ・運行ルートやバス停の位置について、警察、道路管理者、民間地権者の協議を整え、実証運行に必要な車両、バス停の調達を行った。 ・市民に対し、説明会を65回行うとともに、利用ガイドブックを全世帯に配布し、利用周知を図った。	新規コミュニティバス利用者/日		B	新たなコミュニティバスはまだ運行していないため、利用者はいない。 公共交通が利用しやすいと感じている市民の割合は、令和４年度目標の37.0%に対し37.7%であった。現時点で新たなコミュニティバスの実証運行を実施していないが、説明会やガイドブック配布を通じ、認知がされてきたことによるものと考えられる。 シルバーサロンは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開所できなかったため、訪問者はいなかった。 観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により不要不急の外出自粛要請やイベントの中止などにより減少した	事業継続 ・令和５年４月２４日から実証運行を開始する。 ・実証運行の利用状況や利用者アンケートを分析し、本格運行に向け運行内容を見直す。
			48人/日	0人/日			
			公共交通が利用しやすいと感じている市民の割合				
			37%	37.7%			
			シルバーサロン訪問者数				
			1,907人	0人			
			観光入込客数				
			318.27万人	195.29万人			
井頭周辺エリアを核とした真岡市の魅力発信プロジェクト （R4～R6年度対象）	農村部にありながら、一番の観光入込客数を誇る「井頭周辺エリア」を核に、真岡市の魅力を発信する事業を行う。観光客に本市の魅力を感じてもらうため、施設間の連携を強化し、エリア一体としての受け入れ態勢を強化することで、周遊性向上による滞在時間の延長、観光消費額の増加を図る。 また、更なる効果増進のために、日帰り旅行から宿泊旅行へと促すグランピング施設等を整備する。これら受け入れ態勢の強化に加え、首都圏等に向けたデジタルマーケティングを活用した情報発信を行うことで、農村部へ新たな人の流れを創出する。	いがしらリゾートエリア連携で「いがしらリゾートアウトドアフェス」を初開催し、メインターゲットとなるファミリー層に来場いただき、新たな客層へのエリア周知を図ることができた。 また、効果増進のための宿泊コンテンツの充実を図ることを目的に、首都圏からの若者やファミリー層の利用で好評の、グランピング施設において、屋外型トイレやWi-Fi、防犯カメラを整備し、利用者満足度向上を目指した。	井頭周辺エリア観光拠点売上高		B	いがしらリゾートイベントの開催や専用ホームページ開設、SNSを活用しての情報発信など、認知度向上に向けた取り組みや、グランピング施設へのハード整備により魅力道向上に向けた整備を実施したことで、利用者数は上向き傾向にはあるが、観光施設として、新型コロナウイルスの影響を受けることも大きく、設定したKPIの達成には至らなかった。	事業継続 今後はアフターコロナの中、選ばれる観光拠点となるよう、県をはじめ、各施設の更なる連携強化を図ると共に、イベントの継続的開催による認知度向上と、各施設のブラッシュアップに伴う滞在時間の延長を図り、観光消費額の増加を目指していく。
			6.5億円	5.3億円			
			井頭周辺エリア観光入込客				
			141万人	110.96万人			
			真岡市への宿泊者数				
			15,000人	10,111人(R3)			
			県東地域滞在時間数				
			2時間53分	3時間17分			

地域再生計画の名称	事業概要	取組内容	ＫＰＩ（令和4年度） 目標値	実績等	指標の達成度（自己評価）		改革改善の方向性及び課題・解決策
【交付金名：地方創生拠点整備タイプ（旧：地方創生拠点整備交付金】							
地場産業の生産性向上に資する真岡木綿会館及び観光物産館再整備事業 （H30年度対象）	真岡駅から中心市街地の商店街への徒歩圏内の動線上に位置し、伝統産業の展示機能等を有する「真岡木綿会館」及び特産品等を販売する「観光物産館」に滞在・滞留できるオープンスペースを増築する。 更に、観光客等の滞在時間の延伸と、民間美術館、SLキューロク館や中心商店街の回遊性を促進する商店街イベント等との連携を図り、観光消費額の増加を図ることに加え、商工会議所、商工会や中小事業者と特産品等を生かした新商品の開発や販売を進めながら、官民協働で中心市街地の商店街全体の稼働率及び客単価等を向上させ、地場の中小事業者等や観光業の所得向上につなげる。	・真岡木綿会館再整備工事 既存の真岡木綿会館に、木綿製品の販売スペース（ショップ）を増築した。 また、ショップに併設したウッドテラスを増築し、「もめん茶屋」や木綿会館の滞留スペースを整備した。 ・観光物産館再整備工事 既存の観光物産館に、ウッドデッキ（カフェスペース）を増築した。 また、若い世代が参集しやすいカフェや景観整備を図り、中心市街地の賑わいを創出する。	真岡木綿会館 売上額 12,533 千円	11,709 千円	A	・真岡木綿会館再整備工事 既存の真岡木綿会館に、ショップを増築し、これまでの見学・機織り体験に、新たに販売機能を加えた施設になり、真岡木綿に親しみやすい環境やウッドテラスを増築し、来館者や観光客が集い憩える空間を提供できる施設になった。これにより、中心市街地へ賑わいの創出に努め活性化を図ることができた。 また、キューロク館や中心商店街に回遊性を持たせるイベント等を展開することができた。	事業完了 完成した両施設を有効活用し、交流人口の増加に努めていく、また、DCを契機とし、磨き上げた観光資源を積極的にPRすることで誘客を図りるとともに本市の知名度向上に努めていく。さらに、中心市街地と観光施設等を結ぶ回遊ルートを作成すること、また、客一人当たりの観光消費額の増加を目指す。
			観光物産館 売上額 13,900 千円	9,086 千円			
			真岡木綿会館及び観光物産館入館者数 80,799 人	36,371 人			
まちの賑わい創出に資する観光起点再整備事業 （R1年度対象）	更なるまちの賑わいの創出に向け、回遊による観光まちづくりの推進強化として、観光起点である真岡駅舎３階の情報センターを利活用（改修）し、ＳＬ鉄道駅という強みを活かしたテーマ性と、いちご生産量日本一の特性を活かした（仮称）いちごＳＬワールドを整備する。この施設整備により、真岡鐵道の利用促進と、観光起点である真岡駅における滞在時間の延伸、それに伴う観光消費額の増加、また、中心市街地への回遊者増加による商店街の観光消費額の増加と所得の拡大を図るとともに、所得増加等による新商品開発や新たなしごとの創出、雇用の増加等につなげていく仕組みを構築する。	・観光拠点再整備工事 旧情報センターを、SLやいちごを模した子ども向け遊具エリア、飲食エリア、赤ちゃんの駅に改修した。	SLキューロク館 売上額 8,875 千円	12,548 千円	A	真岡駅子ども広場を整備し、真岡駅周辺の活性化、親子のふれあいの創出、子育て環境の充実を図った。コロナ対策にて市民限定の期間もあったが、市内外から20,473人の利用者があり、周辺施設への集客へと繋げることができた。	事業完了 真岡駅子ども広場に来場した方へ、今後も、中心市街地や周辺施設への案内の強化を図りたい。
			真岡鐵道乗降者数 956,528 人	856,629 人			
			観光物産館 売上額 13,940 千円	9,086 千円			

事業の名称	事業概要	取組内容	ＫＰＩ（令和4年度） 目標値	実績等	指標の達成度（自己評価）		改革改善の方向性及び課題・解決策
【交付金名：デジタル実装タイプ（旧：デジタル田園都市国家構想推進交付金）】							
スマート申請システム導入によるデジタル窓口構築事業 （R4年度対象）	真岡市では、市民課窓口で住所異動等の届出を行う際に、「かんたん窓口システム」を導入することで「書かせない」市役所を実現させている。今後、更なる行政サービスの拡充に向けて、オンラインで申請等が完結できる「スマート申請システム」を導入することで、市民にとって利用しやすいデジタル窓口を構築することで、「来させない」「待たせない」「書かせない」市役所を目指すことで、本市のＤＸビジョンである「ハイフレックス市役所」の実現を図る。	「かんたん窓口システム」に加え、「来させない」市役所の推進を図るため、「スマート申請システム」を導入し、107件のオンライン申請が可能とした。	かんたん窓口システム利用数 5,000件 オンライン申請利用数 300件 申請平均所要時間の削減率 2.0% 窓口対応に満足している市民の割合 98.0% マイナンバーカード交付率 50.0%	5,261件 1,937件 15% 96.1% 67.9%	B	KPIについては、概ね達成することができているが、スマート申請システムとかんたん窓口システムの連携による「待たせない窓口」については、未実装である。 今後、システム間の連携を図ることで、「ハイフレックス市役所」の実現を図る。	事業継続 「来させない窓口」については、市民ニーズの高い手続から優先的に整備を行う。 令和５年２月に引越しワンストップサービスが開始したことで、オンラインでの事前申請内容を窓口での手続きに活用する「待たせない窓口」の実装を目指す。
AIチャットボット等による広報DX市ホームページ再構築事業 （R4年度対象）	市民等が情報を取得しづらい市ＨＰを利用者目線で使いやすく、伝わるHPへと再構築する。また、現在、市公式ＬＩＮＥで先行導入されているＡＩチャットボットをＨＰに導入することで、更なる利便性の向上につなげる。また、首都圏向けにデジタル広告を配信することにより、閲覧者を市ＨＰに誘導し、本市の魅力を知ってもらうことで、観光誘客や移住定住の促進につなげる広報ＤＸツールとしても活用する。	・HPの再構築に伴い、AIチャットボットを導入し、市民等からの問い合わせへの回答機能を追加した。 ・HPについては、課を跨いだ「子育て応援サイト」「防災ページ」を作成することで市民にとって必要な情報にまとめてアクセスできるようになった。 ・誰でも同じ水準で情報発信ができるようガイドラインを作成し、職員研修を行った。	AIチャットボット問い合わせ数 1,800回 平均セッション時間 20秒 サイト全体のページビュー数 350万回 市制に関する情報が得られたと感じる市民の割合 71.8% 観光入込客 318.27万人	967回 未計測 未計測 66.1% 195.29万人	B	業務完了が年度末であったため効果検証が不十分ではあるが、計画通りHPの再構築ができており、広報DXツールとして活用を始めることができた。 また、AIチャットボット等の利用促進するための周知チラシを作成するなど利用促進を図った。	事業継続 HPの品質を維持するために、作成したガイドラインに基づき広報広聴係が各課の伴走型支援を行う。